

10月のGlobal Session レポート修正済

期日：2025年10月25日(日)10:00～12:30

場所：ガレリア3階会議室

ゲスト：濱田雅子さん（服飾社会史研究者・神戸市在住）オンライン講座

コーディネーター：亀田博さん

タイトル：西洋服飾史～エジプト編

参加費：600円

参加者：8名

亀田さん（コーディネーター）：みなさん、お久しぶりです。まず、自己紹介からお願いします。

Z・Yさん：おはようございます。何度も濱田先生のゲストの講座に参加しています。外国にルーツを持つ子どもたちの教育支援をしています。

E・Oさん：濱田先生、こんにちは。今までいろいろありましたが、元気です。

濱田さん：仕事を替えられたのですね。

E・Oさん：今は、JT プラントという JT の子会社で働いています。3交替制なので、大変なところもありますが、先輩などが面倒をよく見てもらえるので助かっています。

R・Aさん：この濱田先生の Global Session も2. 3回参加したと思います。地域の日本語コーディネーターをしています。

児嶋：この Global Session は、私が交流活動センター在職中の1999年から始めたので、20年以上継続していると思います。いつも新しいことを学んで楽しいですね。

佐々木さん：このセンターの職員ですが、今日も濱田先生、よろしくお願ひします。

亀田さん：オンラインですが、もう少し聞こえるようにしたほうがいいですね。これで、大丈夫ですね。もうひとり来られたので自己紹介をお願いします。

M・Kさん：亀岡市の保津小学校に勤務しています。Global Session は、いつ来ても楽しいです。今日は、京都から來ました。

亀田さん：では、始めましょう。

濱田さん：本日から、西洋服飾史編に切り替え、児嶋さん、亀田さんにお世話になりながら、神戸からオンラインでお話しします。今回は、2014年から始めて、28回目になります。

I はじめに

本報告は、2025年10月25日に開催された Global Session（主催：オフィス・コン・ジュント、共催：アメリカ服飾社会史研究会）において実施した講演「西洋服飾史～エジプト編」の内容を整理したものです。本講演は、「映像で学ぶ西洋服飾史講座」シリーズの第1回として位置づけられ、古代エジプトの服飾を歴史的・宗教的・社会的観点から多角的に考察することを目的としています。

当日は、スライドで紹介した壁画・彫像・ミイラ・装飾品の実物写真により、衣服の形狀だけではなく、そこに込められた象徴性・信仰観・素材加工技術が立体的に理解できる構成としました。

参加者からは、「まるでエジプト展を直接見ているようだった」「展示室では通り過ぎてしまう衣装の細部を、初めて『意味』として理解できた」という声が多く寄せられました。

II 本講座の目的と視座

服飾史研究において、衣服は単なる装いではなく、「文化の言語」として機能します。本講座では、衣服を「身分秩序」「宗教観」「美意識」「労働と生活環境」の反映と捉え、図像資料と実物資料を照合しながら、その構造的な意味を読み解きました。

また、研究方法としては、以下の二点を特に重視しました。

衣服の造形と身体性の関係を明確にすること

（例：カラシリスの身体線強調性）

服飾品を信仰体系における象徴として理解すること

（例：スカラベが示す再生の思想）

この視座は「服飾を生活文化の中で読み解く」アメリカ服飾社会史研究の延長として設定しました。

III 歴史的・地理的背景と冥界観

エジプト文明はナイル川の氾濫による肥沃な大地に支えられて成立した。「エジプトはナイルの賜物」という言葉が示すように、自然環境は生活と信仰の基盤でありました。また、王朝時代の変遷は、社会制度とともに服飾の形式に明確な変化を与えました。

特に重要なのは、冥界での再生を前提とした死生觀である。古代エジプト人は、死後の世界において再び生きる「第二の生」を信じ、そのために身体を保存するミイラと、来世において神々と対面するための「礼装」としての衣服を準備しました。

衣服は単なる現世の装いではなく、来世における存在の身分証明でもありました。

IV 亜麻布の生産技術と社会的意味

古代エジプト服飾の中心となる素材は、亜麻（フラックス）である。繊維を取り出し、紡錘を回転させて糸にし、織り上げる過程は、女性の労働力に大きく依存していました。

布の織り密度は階層差を示した。粗織布は一般民に、薄く透明感のある織布は神官・王族の衣に用いられました。

ここに、布そのものが「身分と清浄性」を可視化する媒体であったことがわかります。

V 男女服飾の形状と象徴性

1. 男性服

初期：腰布（シャンティ）

王権象徴：パニュ

後期：カラシリス、巻き衣

王族衣装に見られる複雑なプリーツは、技術力の誇示であると同時に、太陽光を反射する神聖性の演出の役割も果たしました。

2. 女性服

初期：腰布式チュニック

後期：身体線を強調するカラシリス

女性服に見られる透明感は、美意識だけでなく、豊穣と生命力の象徴でもありました。

VI かつら・化粧・装身具

髪型・かつらは身分と役割を示す記号でありました。

特に装身具におけるスカラベ（聖たまご虫）は、太陽神の再生力を象徴する護符として用いられ、死後の再生への願いを表していました。

黄金のサンダルは、現世ではなく来世で神に出会うための礼装であった点に留意すべきであります。

VII 講演後の反響 —「見えていなかったものが見えた」

本講演後、参加者から次のような印象深い声が寄せられました。

「私は実際にエジプトへ行き、遺跡や壁画を見学した経験があります。しかし、現地ではその服装がどのような素材で、どのような意味をもっていたのかまでは理解できませんでした。今日の講演では、壁画に描かれた線一本、布のひだ一枚にまで意味があることを初めて知り、まるで『衣装が語り始めた』ように感じました。」

これは、本講座が単に歴史的事実を紹介するのではなく、服飾という「文化の言語」を

読み解く視点を共有できることを示しています。

すなわち、「見ていたつもりで見えていなかった」ものが、言語化によって理解可能となつたのです。

Ⅷ 結語

古代エジプトの服飾は、生活・信仰・社会秩序を一体化させた体系がありました。

特に、衣服が「来世の身体」を整えるものであったという思想は、後世の宗教儀礼服、王権象徴服、聖職者衣装などに継承され、のちの西洋服飾全体に深い影響を与えています。

本講座が、服飾史を「単なる衣服の歴史」ではなく、人間の生と死、世界観を読み解く学術領域として再確認する機会となれば幸いです。

亀田さん（コーディネーター）：みなさん、質問はありますか？

E・Oさん：このような解説は聞くチャンスがあまりなかつたので、驚いています。

Z・Yさん：勉強になりました。服飾のこのような知識は今までになくて、身分や職業によって、相当な古代から服装がちがうということにびっくりしました。中国ではあまり聞いた事がないのですが、エジプトには今も区別がありますか？

濱田さん：身分のちがいでのちがいですね。「はだかの王様」は王様にみえませんね。

亀田さん：最近、フランスのルーブル美術館で事件があり、さわいでいますね。エジプトでは、古代から麻の衣服があったことにびっくりです。紡錘の方法もさかんであったという点も。三宅一生さんのプリーツプリーツなどに影響しているのでしょうか？服飾の点で昔の基礎が今にも影響しているという自覚が必要と思いました。当時からデザイナーはいたのでしょうか？

濱田さん：テキスタイルや衣服のデザインにたずさわっていた特定の職人はいたものと推測されますね。アメリカの服飾史から、ヨーロッパに移りましたが、おもしろいでしょう？

亀田さん：今後、ルネッサンス時代における男と女の差に変つてくると思いますが、アメリカとはちがつたおもしろさがありますね。今までに私はいろいろな美術館に行つたので楽しみです。

濱田さん：YouTube を作っていて、人気があり、視聴者が多いです。感想は、映像が美しいという声がたくさん寄せられています。私は、歴史の教員だったので、歴史という背景と服飾をからめていく手法を使っています。

児嶋：エジプトに実際行きましたが、このような衣服と身分のちがいなどは、気がつきませんでした。

濱田さん：私はエジプトには行ったことがないのですが、丹野郁博士の研究を見て気づかない身分差があると知り、ポピュラーなエジプトをどのように話していくかを悩みました。

佐々木さん：服装によって身分差があると初めて知りました。壁画を見るだけではわからないことがあるのですね。それが死んだ世界につながるということも知り、実際に生きるということに視点が向いてきました。

濱田さん：「冥界への審判」もあります。

亀田さん：3月の濱田さんのGlobal Sessionでメソポタミア編がありますね。

濱田さん：期日は後ほど相談して決めさせていただきますが、また参加してください。次回も、ていねいに取り組ませていただきます。

濱田の You Tube の登録者数は 1520 人です。ようやく、動画 creator として、承認されました。動画 Creator になれる条件は、登録者数 1000 人、過去 1 年間の総再生時間数 4000 時間と、なかなか厳しい世界です。メソポタミア編は、現在、YouTube では、9343 人の視聴者がいます。

お楽しみになさって下さい。

11月の Global Session の予定

期日：2025年11月29日(土)10:30～12:00

場所：ガレリア3階会議室

ゲスト：日置道代さん（へき亭を長く運営・料理研究者）

タイトル：「嫁いだ家は武家の家～400年の歴史あり～」

12月の Global Session

期日：2025年12月13日(土)

ゲスト：藤井那菜さん（亀岡市在住・市役所職員）

タイトル：「昨日までの私の旅」

1月の Global Session

ゲスト：Noah Mathy（ノア）さん（ドイツ出身・亀岡市国際交流員）

2月の Global Session

ゲスト：C・Yさん（中国出身・元ひまわり教室指導者）

3月の Global Session

ゲスト：濱田雅子さん テーマは「メソポタミアの服飾」

4月の Global Session

ゲスト：寺町富貴子さん(旅行業務の会社・外国人ホームステイ受け入れ)

5月の Global Session

ゲスト：菊池史憲さん (AIについて)